

## 平成30年度 第2回 吹田市新・放課後子ども総合プラン運営会議 議事録

日 時 平成31年2月7日(木) 午前 10時30分～正午

会 場 青少年拠点夢つながり未来館(ゆいぴあ) 多目的会議室

### 1. 運営会議

#### (1) 開会

自己紹介

#### (2) 議事

##### 議題

##### (1) 平成30年度事業報告

こどもプラザ事業について

留守家庭児童育成室について

##### (2) 検討内容

①新・放課後子ども総合プランについて

②検討事項(1)～(7)について

・両事業の連携について

・活動プログラムについて

・安全管理について

・広報活動について

・ボランティア等の地域の協力者の人材確保等について

・放課後子ども総合プランでの連携実施後の検証・評価について

・その他 研修一覧

### 2. 出席委員(23名うち代理3名)

前田委員長・落委員・西田委員・坂本委員(代理)・曾我委員(代理)・林委員・海部委員

佐々木委員・藤井委員・堀委員・大森委員・植村委員・村井委員・小松委員・大中委員

藤川委員・松井委員・矢野委員・佐藤委員・本田委員(代理)・土屋委員・川崎委員・河崎委員

### 3. 欠席者(3名)

中西委員、堀委員、佐田委員

### 4. 事務局出席者(2名)

小川 壽幸(青少年室 主幹)

澤田 美純(青少年室 主査)

### 5. 議事録

#### (1) 開会

■ 事務局挨拶

■ 委員及び事務局自己紹介

■ 資料確認

## 委員D

みなさんおはようございます。本日は御多用のところ、吹田市新・放課後子ども総合プラン運営会議に御出席いただきありがとうございます。

みなさんもお聞き及びのこととは思いますが、昨年9月に新・放課後子ども総合プランが公表されましたので、それに伴い、設置要領も「新」となっております。御確認ください。本日は吹田市新・放課後子ども総合プラン運営会議設置要領に基づき、会議を進めてまいります。

## 委員H

皆様おはようございます。本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。ただいま委員Dからもありましたように、新・放課後子ども総合プランに基づいて太陽の広場と留守家庭児童育成室を進めておりまして、両方を同一の学校でやるという一体的な運営をしており、全36校で行っております。地域の実情に合わせての実施ですので、学校によって回数が違うという実状もあるのですが、全国的にみると小学校内で留守家庭児童育成室と太陽の広場が一緒にできているところは2割くらいしかない状況です。

そのため、去年の9月に放課後子ども総合プランから新・放課後子ども総合プランとなったわけですが、内容はほぼ前のままと言っていいくらいです。最初に放課後子どもプランが5年間、次に放課後子ども総合プランになって5年間、新・放課後子ども総合プランとなって5年の間に、現在の目標を目指して行こうというものになっています。

吹田市では36校全ての小学校において実施しているということが全国に先駆けております。他市の状況で言えば、留守家庭児童育成室は外部の施設を借りてやっているところもあります。吹田市は子供の数が増えて空き教室が少ない中で、学校の協力も得ながら運営できているところが成果であると考えております。ただ、もっと中身を充実させてほしいとの声もありますし、子供たちにとってもっと良い放課後にするためにはどうすればよいかということ、ここで皆様に御意見いただき、より良いものにしていきたいと思っておりますので、本日はどうぞ最後までよろしくお願いいたします。

## 委員D

ここからは設置要領第5条により委員長が司会として議題を進めてまいります。

## 委員長

それでは、設置要領第2条に基づいて話を進めていきます。まずは平成30年度、途中ではありますが、各事業についてこどもプラザ運営指導員より報告してもらいます。

## 委員N

報告に先立ちまして、平成30年7月5日に行いました本運営会議の第1回目のまとめを作成し、配付させていただいております。このまとめは、各学校、留守家庭児童育成室、フレンドさんには配付済みであることを報告させていただきますとともに、関係室課にお渡ししておりませんでした。申し訳ありません。今回からお渡ししますのでよろしくお願いいたします。

では、資料3を御覧ください。今年度12月末までの太陽の広場の実施状況をお示しております。今年度は雨や地震・台風、不審者の事案により実施できた回数がかなり減少しております。実施回数を比較してみますと、

・平成29年度12月末現在 実施回数 1,351回(実施回数)/1,975回(実施予定回数)

・平成30年度12月末現在 実施回数 1,108回(実施回数)/1,989回(実施予定回数)  
となり、今年度実施予定回数は昨年度より伸びています。実際の実施回数は200回以上減っています。2学期以降、広場によっては雨等できなかつた部分を補っていただくなどして、子供の居場所を確保に努めていただいているので大変有り難く思っています。

学校は、不審者や地震台風などの際に、その状況に応じて子供の安全確保のため一斉下校や学年別集団下校などのマニュアルを定めています。今後、こどもプラザ事業も、有事の際には学校の危機管理マニュアルにのっとりフレンドさんや青少年室と3者で調整して実施するか否かを決定していきたいと思ひます。以上です。

## 委員Q

私からは留守家庭児童育成室関連につきまして、現状と進捗状況などを御報告させていただきます。

現在、平成31年度の育成室入室申請を受け付けています。現在集計中ですが、1月25日現在までの申し込みですと平成30年4月と比べて、300人以上増加しております。入室希望の児童が増加しますと、育成室の教室の確保と、その部屋を見る指導員の確保が必要になります。しかしながら、教室確保、指導員確保とも厳しい状況にあります。教室確保につきましては、教育政策室等と連携しながら、小学校と協議し確保に努めております。

指導員の確保につきましては、昨今、保育士不足が全国的に深刻な問題となっており、留守家庭児童育成室の指導員の確保も困難になっております。非常勤採用試験も行っておりますが、解決するまでには至っておりません。そのような中、採用試験の募集人数を増やすため、近畿地方の大学に足を運びPRを行うようにしています。他にハローワーク、マザーズハローワーク、ジョブナビへの求人登録を行っております。これらにより、応募人数が少しずつ増えてきております。

また、保育の担い手を確保するために市内36カ所の3分の1を目処に民間委託を進めております。今年度は3育成室の予定で進めていましたが、最終的には吹六育成室の1校が決まりました。

育成室の事故発生件数につきまして、年度毎の数字をまとめています。毎日の生活の場であるので、ケガをなくすことは難しいかもしれませんが、子供たちの安全面を考え保育をしていきたいと思ひます。

## 委員長

ありがとうございます。今、太陽の広場で不審者の影響があるとの話がありましたが、資料にあります2校につきまして回数が大幅に少ないところがありますが、事務局から説明をお願いします。

## 事務局

当該校は4月に不審者が出まして、子供たちの安全のために太陽の広場の開催を中止しました。その後、他地区でも2学期以降に不審者が出て、それ以降3校で実施できていない状況です。

## 委員S

続きまして、留守家庭児童育成室の取り組みについてですが、各学校で太陽の広場と連携をさせてもらっています。各育成室での年間1回のまつりについては、太陽の広場の子供たちにお客さんになってもらい、お店などを自分たちで運営していくことで、自発的に動く楽しさを体験させ、子供たちの成長を育む一つとなっており、大変感謝しております。また、避難訓練についても、多くの学校

で、放課後の緊急時の対応について連携して開催できています。今年度は地震や台風など自然災害が多かったので、より実際に近い想定で訓練ができていると感じます。今後とも連携を続けていただければ有り難いです。

#### 委員Q

育成室の高学年の状況についてですが、平成29年度から4年生まで拡大し、本来その次に5、6年生まで拡大する予定でしたが、保育のニーズが非常に高く、児童数が我々の想像を大きく上回る件数となっており、児童を受け入れていくための施設と指導員の確保が追いつかず、当分の間は4年生までの保育に専念するために制限する必要があるという判断をいたしております。まず、来年度4年生の入室申請数は1月25日現在で575人、入室申請率は今のところ16.1%となっており、昨年の同時期は約14%であるので、入室率は上がっております。今後どこまで上がるか動向を見ていきたいと思えます。

5、6年生の受け入れは延期させていただいておりますが、今後どのように対応していくかを研究していく必要があります。そこで、連携させてもらっている太陽の広場に関わっていただいております皆様、5、6年生がどのくらい参加しているのか、5、6年生の放課後の居場所をどのように確保していくのがよいか、ということなどを、本日意見交換させていただければと考えております。

#### 委員長

委員Qから、留守家庭児童育成室の5・6年生のニーズについて御意見をうかがいたいとのことですが、この件も含めまして、検討事項(1)から(7)につきまして順不同とはなりますが、後程、御参加の皆様にご意見をいただくことにいたしますので、よろしく願いいたします。

まず、事務局から新・放課後子ども総合プランについてお願いします。

#### 事務局

新・放課後子ども総合プランについての説明をさせていただきます。

放課後子ども総合プランは4年間が経過し、新・放課後子ども総合プランが1年の前倒しで昨年9月に公表されました。新・放課後子ども総合プランでは、4つの目標として示されています。

1. 放課後児童クラブについて、2021年度末までに約25万人分を整備し、待機児童の解消を目指し、その後も女性就業率の上昇を踏まえ2023年度末までに計約30万人分を受け皿として整備。
2. 全ての小学校区で両事業を一体的に又は連携して実施し、うち小学校内で一体型として1万ヵ所以上で実施することを目指す。
3. 両事業を新たに整備等する場合は、学校施設を徹底的に活用することとし、新たに開設する放課後児童クラブの約80%を小学校内で実施することを目指す。
4. 子供の主体性を尊重し、子供の健全な育成を図る放課後児童クラブの役割を徹底し、子供の自主性、社会性等のより一層の向上を図る。

となっております。2. については放課後子ども総合プランの放課後子ども教室を全ての小学校区で実施し、一体型又は連携して1万ヵ所を実施という数値目標は変わっていません。吹田市では留守家庭児童育成室と太陽の広場を同一小学校内で実施し、運動場での自由遊びの他、連携会議や合同避難訓練、育成室主催のまつりへの参加などを行ない、既に一体型として実施しています。全国的にみれば同一小学校内で両事業を実施しているのは5,219か所で、うち共通プログラムを実施しているのは3,549か所と1万ヵ所には大きく届いていません。吹田市は全36小学校で実施して

いますので、今後も留守家庭児童育成室と連携しながら1回でも多く安心・安全な居場所の提供が出来るように地域と相談しながら進めていきます。

#### 委員M

1. 3. 4. については、代わって、放課後子ども育成課から説明いたします。

1. につきましては、背景・課題でございますように、近年の女性就業率の上昇などにより、全国的に更なる共働き家庭の児童数の増加が見込まれ、放課後児童クラブの追加的な整備が不可欠な見通しという背景から、新プランとして期間を延長して、受け皿確保の数値目標が追加されたものです。

本市におきましては、現時点では、設置・運営基準の範囲内での児童数受入れの弾力運用や、必要に応じ、年度途中での教室・指導員の追加配置、また指導員不足の手立てとしまして、運営の民間委託に注力して進めております。教室確保につきましては、3. の「新設クラブの小学校内での実施」ともつながりますが、従来より、教育政策室との連携のもと、小学校の御理解、御協力をいただきまして、全36育成室で小学校内での余裕教室やプレハブ施設の設置など、両事業とも小学校内での完全実施をさせていただいております。また、4. の「子どもの主体性の尊重、子どもの自主性、社会性等の一層の向上」につきましては、平成27年に策定されました「放課後児童クラブ運営指針」にクラブの育成支援目的としてすでに記載されている文言でございますので、今回、総合プランにあらためて明記されたものと理解しております。

本市におきまして現状としましては、2. の放課後子供教室との一体型運営も含めまして、国が示す新・総合プランの趣旨・目的については、従来より一定充足した運用をしているものと捉えておりますので、引き続き他市の動向等も注視しながら、質の高い運営を目指して参りたいと考えております。

#### 事務局

他市の運営方法や連携の視察として、青少年室と放課後子ども育成課合同で、30年12月に船橋市に行きました。放課後子ども教室(太陽の広場)の広場を市の直営で平日は毎日、夏休みは9~17時まで実施していました。制度が始まったのが平成28年度からなので、まだまだこれから広がる事業なのか、参加平均人数も30名、高学年の参加も少ない印象でした。また、留守家庭児童育成室の代わりに利用している児童は少ないと感じました。連携も会議のみで、運動場では両者が場所を分けて遊んでおり、両事業ともに直営なので、指導員の取り合いとなっているようにも見受けられました。

#### 委員M

続きまして、留守家庭児童育成室(放課後児童クラブ)の視察結果を簡単に御報告させていただきます。船橋市では、昭和55年の開設当初から民間委託方式で放課後児童クラブの運営を開始しておりましたが、場所の遠さ、料金が高いなどの理由で前市長が方針転換をされ、平成12年度から一斉に直営方式に切り替えられました。運営状況としましては、本市と同様に、児童数の増加に施設数と指導員が追い付いておらず、120名を超える指導員の欠員が生じている状況で、また、毎年200名程度、最大で400名の待機児童が出ているという本市以上に厳しい状況でした。担当者レベルでは本市のように、民間委託を進めていかないと今後の運営は大変見通しが厳しいという考えをお持ちでしたが、過去に一度、委託から直営に切り替えた経過があるため、慎重な判断が求められる事

情を抱えていました。

施設確保の状況につきましては、余裕教室だけでは全く対応できない状況のため、学校敷地外の公設施設内や民間の賃貸施設での実施も1割強ございます。以前の吹田市と同じく、放課後児童クラブの所管が教育委員会ではなく、児童部局であるため、運営に関わるいろいろなところでの、庁内の連携の取りにくさを感じておられました。

また、船橋市では、以前より6年生までの受入れをしておりますが、本市が懸念しています、1～6年生までの児童が同じ空間で保育する難しさなどは特に感じられていないようでした。また夏休み等の長期休業期間中の高学年の利用は少ない状況と伺っております。そのほか、1教室3名の指導員を基本配置している点、延長保育の取扱いはなく全施設で午後7時までの開設、全土曜日の1日開設、夏休み等の長期休業期間のみの申請も月単位で受付けている点が、本市より進んだ運営をしていると感じたところでございます。

事務局

どちらも直営でやっていて、留守家庭育成室と太陽の広場の指導員の取り合いになっていて、留守家庭児童育成室の指導員が不足していると感じました。

委員長

放課後子ども教室(太陽の広場)は委託しているのですか。

事務局

直営で、非常勤職員1名と臨時雇用員2名の合計3名体制です。

委員長

やり方はいろいろあるということですね。

ところで、新・放課後子ども総合プランの中の放課後児童クラブというのが留守家庭児童育成室、放課後子ども教室というのが太陽の広場のことです。国の事業名と名称が異なっています。このプランの掲げる目標がその二つの事業を同じ小学校の中ですること、子供たちが共通のプログラムに参加できることを目標としています。制度が違うので同じ学校で実施していても子供たちは交流できないところもありますか。

事務局

他市ではあります。ケガをしたらどちらが責任を持つのかというところが整理できておらず、そうなっているところもあるようです。

委員長

今、船橋の視察の報告がありましたが、吹田の状況を報告したあと、質問など受ける形にさせていただこうと思います。

次に、各学校の太陽の広場を巡回し運営のアドバイスをしているブロックアドバイザーから御意見、御感想等を聞かせていただきます。

委員J

私の方からは、活動プログラムについて、これは第1回目のフレンド連絡会議でもお話しさせていただいたかと思いますが、活動プログラムとはこの、新・放課後子ども総合プランの中で地域のニーズや資源を活用して、放課後子ども教室(太陽の広場)と放課後児童クラブ(留守家庭児童育成室)の子供たちにさまざまな体験活動を提供することを目的として、平成28年度より取り組まれています。

吹田市においても平成28年度より各小学校の太陽の広場の活動日により、活動内容の充実を図るため、活動プログラムとして読み聞かせ、折り紙、工作教室、サッカー・ドッジボール等の球技大会、囲碁や将棋・オセロなどの動の企画や実施を行っていただいています。太陽の広場と留守家庭児童育成室の子供たちが一緒に参加・交流する機会も徐々に増えてきていると思います。

また、この3年で活動プログラムの実施していただく広場や講座の数も増加しております。それぞれの学校が留守家庭児童育成室の子供たちも一緒に参加できるように、内容や時間帯を工夫されているおかげだと考えております。ただ、年間を通してプログラムを実施できる広場もあれば、なかなか教室や内容等の関係で実施が思うように進まない広場もあるのが現状です。今年度の1回目の本会議で、できるだけ無理のないプログラムを考えて実施していただければというお話をさせていただきました。昨年11月の第2回フレンド連絡会では、意見交流会のメインテーマとして活動プログラムのグループ討議も含めて、いろいろな現場での生の御意見をいただきました。「子供たちと一緒に折り紙や縄跳びができて楽しい。」「読み聞かせや紙芝居もしっかり聴いてくれるのでやりがいがある。」「短時間でできるドッジボール大会や大縄大会でも子供たちがすごく盛り上がってくれたので良かった。」という御意見もありましたし、逆に、「工作教室や読み聞かせなどいろいろ実施したいが講師の折衝や実施までの手続きがわかりにくい。」「季節の飾り物の準備をしていたが、今年は雨や地震などで中止になったりして、用意していたものが今年使えず残念だった。」というお話もありました。

また、「留守家庭児童育成室と日程など時間調整することが難しい」という御意見もありましたが、このように自校の現状を出し合って交流することによって、同じ悩みを持つ学校があることがわかったり、他校の工夫や対応のヒントになったというフレンドさんの御意見もありました。今後も青少年室として、他校の活動プログラムを含めた太陽の広場の見学会を実施することで、現状を紹介したり、フレンド連絡会で各校の実態把握を行いたいと考えております。そのことで、各校の太陽の広場が、子供たちにとってより楽しく、安心安全な放課後の居場所になればと考えております。

先ほど高学年の子供たちが太陽の広場になかなか来ないという話がありましたが、学校の枠があるとなかなか自由に遊びにくい、公園や友達の家に行く方がいいという声もありました。これらをふまえて、魅力的なプログラムや高学年の子供たちも異学年で遊べるプログラムが実施できればいいなと感じました。以上です。

## 委員L

安全管理について御報告いたします。平成30年度は、ブロックアドバイザー4名、運営指導員1名、水曜日のみのブロックアドバイザー3名の配置によって、太陽の広場への巡回回数と安全面でのアドバイス等の機会増加に努めてまいりました。各地域で実施される太陽の広場に出向き、遊具に破損がないか、危険な場所はないか、ケガや事故に繋がるリスクがないか等の情報を、フレンドさん、アドバイザーさんと共有してきました。また、フレンドさんや青少年健全育成に関わる方々に向けて、研修会やフレンド連絡会を通して安全面への意識向上を図っており、今年度は5月と1月に実施されました青少年指導者講習会、太陽の広場フレンド連絡会に一般財団法人大阪市青少年活動協会事業部長に来ていただき、「身近な安全管理」というテーマで御講演いただき、安全管理への意識向上を図ってまいりました。身近な活動中の事故事例や安全管理に対する考え方、事故を起こさない

ために指導者ができること、予知、安全対策の徹底、ケガの応急処置、熱中症対策などについて詳しく教えていただき、この2回の研修を通して、事故発生には必ず何らかの原因、前兆、前例がある、突発的に発生する事故は少ない、ということ学びました。「一つの大きな事故の背後には29の小さな事故があり、その背後には300のヒヤリハットがある」、という言葉が強く心に残っています。

指導者が知っていれば防げる事故はたくさんあります。そのためには、これまでの取り組みでの事故事例を大切にしなければいけません。太陽の広場の活動日誌には、事故・ケガ等の特記事項という項目欄があります。ヒヤリハット、小さなこともおろそかにせず記入して、情報の共有、引継ぎの徹底を図ることが大事だと感じました。また、安全管理については、何度も話を聞き学習することが大切だと強く感じました。

昨年度のけがの状況のまとめについてですが、今年度は12月現在で、医療機関を受診したケガが17件となっております。今年度はさまざまな理由で中止となることが多く、実施回数が伸びていませんので、前年度に比べてケガの回数は少なくなっています。ただし、同時期の件数比較で考えますと、平成28年度は31件、29年度が30件、今年度が17件となっております。また、事故発生率では、平成28年度が2.33%、平成29年度が2.22%、平成30年度が1.9%と減少傾向にあります。このことは、繰り返し研修を通じて学ぶ中で、フレンドさんの安全管理に対する意識が高くなっているからだと考えています。また、フレンドさんの方でケガに対する適切な初期対応をしていただいているからだと考えております。

次に、留守家庭児童育成室との合同避難訓練の実施状況について御報告させていただきます。今年度は雨で日程変更となった学校も多く、12月現在で実施済みの学校は16校、3学期に実施の日程が決まっている学校が9校、まだ決まっていない学校が11校となっております。実施済みの学校では、火災が1校、不審者対応が1校、地震が14校となっております。昨年同様に地震の避難訓練が多くなっていますが、今年度は6月に大きな地震を経験しているため、子供たちは真剣に取り組んでいました。

昨年度よりの取り組みの改善として、避難訓練終了後に各校での実施の様子や課題・問題点等を整理して、青少年室で情報の共有化を図っております。その中から、どの学校でも教頭先生や校長先生が校内放送や講評など訓練に協力してくださっていることがわかりました。

留守家庭児童育成室と併設幼稚園と運動場に同時に放送ができないという課題も見えてまいりました。訓練内容に関しては、不審者訓練の場合は子供たちが避難できる場所があるかどうかという課題もあり難しいのですが、今年度と昨年度それぞれ1校ずつ実施しましたので、それぞれの活用できるノウハウを共有していきたいと思っております。いずれにしても、有事の際には、留守家庭児童育成室の指導員さん、学校の先生との連携が必須であると考えます。平成28年度は24校、29年度は9校と、実施校は増えてきております。今年度もまだ日程の決まっていない学校も含め、太陽の広場の開催時に学校の協力の下、留守家庭児童育成室と連携して子どもの安全確保のため、今後できるだけ多くの学校で合同避難訓練を実施していきたいと考えております。

## 委員P

広報活動についてですが、吹田第二小学校の太陽の広場通信を御紹介させていただきます。

吹二小は太陽の広場を週3回実施し、フレンドさんは地域の高齢の方が多い学校です。平成29年度より、「広報紙を作ろう」という研修に参加されたことがきっかけで、太陽の広場の活動を広く保護者の方々に知っていただくことと、保護者の中からもフレンドさんになってもらえる方がおられたら…という思いで年3回を目標に発行されています。また、毎年、何校かのPTA広報紙には太陽の広場の活



動の紹介やフレンド募集の呼びかけの記事を掲載していただくなど、広報に努めています。

#### 委員長

ありがとうございました。事務局からの説明と、ブロックアドバイザー、運営指導員から様々な事例や意見が出ました。広報活動に絡んで人材確保についても触れていましたが、実際に現場にかかわっているみなさまにも御意見等をいただきたいと思います。あるいは、留守家庭の方で投げかけられている高学年のニーズについてなどでも結構ですので、御発言をいただきますようお願いいたします。どなたかおられませんか。

#### 委員U

千里丘北小学校は、吹田の中でもかなり小さい学校になりますが、年々すごく人数が増えてきています。一昨年くらいから1年生が増えてきて大変だねという話をフレンドの中でもしていました。フレンドは現在6名いるのですが、私以外は今、お子さんを小学校に通わせている方です。子供たちが増えているのでやはりもう少し、フレンドさんの人数が必要だねという話しをしています。

広報活動は、PTAの新聞に掲載していただくなどしているのですが、お子さんの預け先ではないということも含めて周知していかなければいけないと思っています。預け先でない以上、お子さんがどのような活動をしているのか保護者の方に見に来てほしいと思うのですが、なかなか浸透しておらず、こちらのPR不足もあるのかもしれませんが、今後の課題です。

また、安全管理の話になりますが、実は去年に応急手当普及員という資格を取りました。フレンドさんも応急手当の方法やAEDの使い方などわからないという状況があり、今年に入ってからAED講習をフレンドさん向けにさせていただきました。その時に、AEDだけでなく、例えば熱中症になったらどのような処置をすればよいのか、止血の方法なども組み込んで行いました。すごく大事な話だと思いますので、各校のフレンドさんにも知ってもらいたいと思います。もし他の太陽の広場で要望があれば私がうかがわせていただきます。普段の生活でも急に倒れる方を目にした時に、初期対応が非常に重要になるので、そういう意味も含めてやっていけたらと思っています。

また、避難訓練のことにしてもそうなのですが、留守家庭児童育成室の方とも連絡を取りながら、どういう形が一番望ましいのかということを探っていきたいと思っています。以上です。

#### 委員長

ありがとうございます。千里丘北小は一番新しい学校ですね。太陽の広場も他の35校すべてでできるまでに12年ほどかかった記憶があります。千里丘北小ができていつごろから太陽の広場が始まるのかなと思っていましたが、キーマンとなって委員Uさんが活躍されたので今36校でできるようになっています。児童の人数が増えているということですね。

#### 委員U

子供は増えているけれどもフレンドの数も少ない中でどうしたらよいかと思っています。フレンドの中にもお仕事を持っておられる方もいるので、毎週水曜日というわけにはいかないのですが、その絡みもあり、子供たちの居場所をどう作っていくのかというところが課題です。

#### 委員長

委員Rさんのところはいかがですか。

## 委員R

私どもは週5回やっております、留守家庭児童育成室の方とは必ず月1回連携会議をしています。私以外の他のフレンドさんにもなるべくいろいろな方に行っていただいて、意見交換していただくようにしております。やはり5、6年生の子供は2学期後半になると参加が減ってきます。うちの地域は小学校の隣に児童センターや公園があり、子供たちがしっかり遊べる広場がありますので、地域的には恵まれていると思います。

フレンドさんの数もいますので、うまく組み合わせて必ず予備の方も入るようにしています。突然、担当のフレンドが都合悪くなった場合には、私に連絡してもらったら誰か探す、もし誰もいなければ私が入るというようにしています。その辺りは地域としては恵まれているし、PTAの方や高齢者の方も入っていただいていてフレンドさんの数もけっこういらっしゃるの、週5日やっけてもうまく回っています。

子供教室も今月で8回目が終わるのですが、そちらも地域の方にはかなり御協力いただけてますし、もちろん学校にも特別教室をお借りするなど御協力いただけており、その辺りのこともかなり大きな力になっています。いちばん最初は5日やれるのかということもありましたが、皆さんやるつもりだったのでしっかりと続けられています。

## 委員長

ちなみに高学年になるほど参加者は少ないのですか。

## 委員R

そうですね。最近5、6年生はほとんど来ていないのですが、たまに数人は来てくれることもあり、6時間目が終わっての4時半までの少しの間だけでも遊びたいという子供たちが来ています。1人お若い男性のフレンドさんがいらっしや、一緒に体を使って遊んでくださったり、すごく助かっていますし、子供たちもすごく楽しんでます。

## 委員長

私どもも学校を回っている時に、フレンドさんから5、6年生の太広離れ、卒業という話を聞きます。子供たちが習い事などで忙しいという話も聞きますが、他に居場所が見つかったのかなという方もいらっしやいます。高学年の傾向としては短いけれど、来る子は来るということですね。

## 委員R

はい、短い時間でも宿題をして、少しだけでも遊びたいという子供は数人います。質問ではないのですが、今、留守家庭児童育成室で4年生までやっておられますが、5、6年生もいずれはと考えておられるようですが、入りたい方はやはりたくさんおられるのですか。御両親がお仕事で遅くなる方もおられるかとは思いますが。

## 委員Q

ニーズとしましては引き続きお願いしたかったという方はいらっしやいますが、傾向としては学年が上がるにつれて減ってきていることも現状としてございまして、いろいろな居場所があったり習い事が増えたりなどが要因としてあるのかなと思っています。

#### 委員V

5、6年生で入りたいという声の方がたくさんいるわけではないということですね。

#### 委員Q

そうですね。何パーセントかまでは今はこちらではつかみ切れていませんが。

#### 委員V

でも、もしかしたら潜在的にはいらっしやるかもしれないということですよ。

#### 委員Q

現状としてはとても受け入れ態勢が整っていないのですが、かといってずっと実施できないという訳にもいかず、例えば既存の施設を利用して何かできないかということは考えています。

#### 委員G

千里丘中学校区ですが、先ほど委員さんの方からありましたように、千里丘北小は今は400人程度ですが、ゆくゆくは1,000人から1,200人になると予測されています。私どもは3小学校区ありますので、太陽の広場の取り組みもそれぞれ違いますし、例えば千里丘北でいえば、1,200人にもなるとあの運動場でどう実施するのか、という問題もあります。非常に課題が多い中で、千里丘中学校区としてこれまでは全体で動いていたものを、今は小学校区単位でそれぞれの活動をする形になっています。

安心して安全に子供を育成室に預けることと、太陽の広場の人材確保の話が先ほどから出ておりますが、子供の自主性を重んじたという、学習指導要領にのっとったすごく良い方向性だとは思いますが、自主性を重んじるということはそれだけ人材も必要になるということで、子供がそれぞれに活動する場合、安心して安全な活動を保証できないということになります。その時に、今の現状としてPTAや高齢者が中心となっていますよね。これは前回も申し上げたのですが、子供たちの現状を見ると、挨拶をしない子供がいますよね。無視をする。それは不審者に対してはわかりますが、自分たちを見守っている人に挨拶すらできない。見守ってもらっている相手から、おはようと言ってくれるのに知らん顔している子供もいます。

また、太陽の広場でも自分の孫や曾孫くらいの小さい子供たちが、友達のような言葉づかいをしていることもあります。もし自分だったらどんな気持ちになるのかなあと思います。今日はお二人の校長先生も来ておられますし、校長会でも十分言っていただいて、朝礼でもお伝えいただき、各学級でも御指導いただきたいとします。太陽の広場で見守ってくれている人たちに対する挨拶や礼儀作法があると、関わる側からしてもやってよかったと自己実現でき、太陽の広場に行ったら子供たちと交流もできて元気ももらえたり良い気分になるよということが口伝えで広がることで、人材確保に苦労しなくても自然に広がっていくことがあると思います。是非そういった点を校長会の代表の先生にお願いしたいと思います。

次に、これは留守家庭児童育成室に関わる話ですが、両親が働いていて帰っても誰もいない家庭の数と留守家庭児童育成室に入室している数には差があると思います。特に単身家庭で養育している場合は、より一層切実な問題だと思います。単身家庭であるのにも関わらず入室していないのには何らかの理由があると思います。その理由が何なのかを突き止めていかなければならない。例えば育成室保護者による夜の会議に出席するのには、仕事との関係で負担が大きい等といった理由

です。その敷居の高さとなっているものを低くする方法を工夫し、検討していく必要があると思います。

私は児童会館の館長もしておりましたが、そこではお祭りやお化け屋敷といった年間の大きな行事もありますが、それ以外にマジシャンが来たりバルーンアートが来たりという小さな行事もたくさんあります。留守家庭児童育成室の子供たちも児童会館でそういった行事があるけれど、留守家庭児童育成室があるから行けないということではなくて、そういうところと連携してその時間はみんなで行こうというかたちにすると子供たちも喜ぶと思います。是非、児童会館、児童センターとの連携も深めていただきたいなと思います。以上です。

## 委員長

ありがとうございます。PTAの委員さんの立場からはいかがでしょう。

## 委員V

確かに挨拶しない子供がいるというのはあると思います。一保護者の立場から言うと、知らない人と話したらいけないということを忠実に守っている子供もいると思うんですね。要は、親がちゃんと挨拶しているかどうかだと思います。保護者によってはコミュニケーションが難しい方もいらっしゃいますし、留守家庭児童育成室になぜ入らないのかということも、保護者会の中で役割を担わなくてはならないなどの理由もあると思います。人間関係ができていればしんどくないことだとは思いますが。

また、お母さんだけが子育てしているわけではないので、男性の理解も必要だと思います。お母さんのパワーだけで子育てや見守りはできないし、必死に頑張っているのが現状です。留守家庭児童育成室や太陽の広場、習い事、おじいちゃんやおばあちゃん、地域の方々の力を借りて子育てしているのですが、日々の中ではなかなか実感できません。今、頑張っているお父さんお母さんの視野がもっと広がっていけばいいなと思います。自分の地域からでも少しずつ変わっていけば、住みやすく子供たちも楽しく、地域の活動も盛り上がってくると、私たちの世代からもそういうところに貢献しようとする人が出てくると思うので、コツコツ頑張っていきたいと思います。

## 委員A

本当に人と人とのつながりは大事だと思います。何かあった時に、あの子知ってるわ、あのおっちゃん知ってるわ、と見守られている部分がたくさんあると思います。

先ほどの挨拶ができていないとか感謝が表現できないということは、今の子供たちは気持ちがあってもなかなか言葉に出せないということがあります。全校集会でも子供たちには、学校でのあいさつ運動も含めて挨拶について、声をかけているところです。教師自身が子供たちに「おはよう」と元気よく声をかけて、そこからスタートして、私も正門で子供たちに声をかけます。立ち止まってお辞儀をする子供もいれば、こちらが挨拶をしても素通りしていく子供もおり、いろいろです。

道徳の授業を今35時間以上やっていますが、1年生にはちさんのバッジというものがありまして、8時と3時、登下校の時間に見守りをしている方のお話なのですが、子供たちはいつもぶらぶらお散歩しているその人が羨ましいというか、暇なんだなという見方をしていた、それが暇ではなく、はちさんのバッジを付けて8時3時を忘れないように見守り活動をされていた、ということが後でわかったというお話なんです。本校でも子供たちの登校の際に地域の方で見守っていただいています。集団登校もあるのですが、緑のジャケット、ピンクの帽子をかぶっておられたり、黄色い旗を持っておられるなど、明らかに子供の命を守っていただいていることが見てわかるのですが、なかなか子供たちも毎日のこ

となので挨拶をする子供もいれば素通りする子供もおり、見守り活動されている方からも挨拶してくれたらもっと元気が出るのになという声は学校の方でもお聞きしますので、そこは学校全体として子供たちに繰り返し言っていきたいと思います。感謝の気持ちや挨拶を通じてコミュニケーションを取る、それが子供の命を守ることに繋がるということだと思います。

道徳の授業を終えた後、本校1年生200人が、地域で見守りをしてくださっている二つの団体に対して感謝のお手紙を書きました。そういった学習をきっかけに改めて認識することもあるので、学校としてもどんどん発信し、地域と連携していかなければならないと思っています。

#### 委員T

地域の防犯の会議に行きますと、防犯活動で活躍されておられる方々は子供に声をかけませんとおっしゃいます。子供に声をかけた時点で知らない人なので不審者扱いされるので声はかけにくいというお話も聞いたりします。

1人の1年生の子供が、ランドセルを持ったまま公園でブラブラしていて、その様子を通りかかりの若い方が見つけられ心配をして声をかけられたことがありました。状況を見られていた別の方が不審に思われ通報されるということがあり、大変世知辛い世の中だなと感じました。保護者感覚でいうとそこがなかなか難しいところだと思います。

また、先ほど5年生のニーズというお話がありましたが、5年生になって留守家庭児童育成室に行かなくなって、自由な時間を持て余していろいろな生徒指導上の問題を起こすことも無くはない話です。我々、学校として心配なのは、5年生になって夏休みの過ごし方が留守家庭児童育成室に行かないと1日フリーになってしまうところで、ただこれは5年生だけの問題ではなくて、船橋での事例もありましたが、夏休みだけのニーズという観点で考えていただくことも必要かと思います。

また、外国籍の子供の留守家庭児童育成室への入室や、太陽の広場で遊んでいるということも今後増えてくると思います。先日も保護者はまったく日本語ができない中、学校に来ていただいて通訳を通じて私から説明させていただいたのですが、保護者会の関わりや知っておいていただかないといけないこともあるでしょうから、そういった外国籍の方々への配慮についても課題にのせておいていただけたらありがたいと思います。特に今回の子供はムスリムなので、イスラム教にのっとった形で学校も対応しているのですが、こういったことが今後、増えてくると思いますので、御対応よろしく願いいたします。

#### 委員長

太陽の広場を含めまして、地域が学校を支援する学校の応援団のような形で組織を作っていくのが大事ななと思っているのですが、その辺りについて何か御意見あればお願いします。

#### 委員K

本日は担当者が他の公務のために代理で出席させていただいたのですが、今日この場に来させてもらって良かったなと思っています。といいますのは、教育委員会とはいえ学校から少し離れたところで直接、子供にふれる機会は少ないのですが、フレンドさんや指導員の方、アドバイザーの皆さん、PTAの方々も、本当に子供としっかり関わってくださって御苦労いただいている、というのがとても伝わってきました。指導室としましても学校に対して指導する立場ではありますが、毎年新しい年度を迎える前に大阪府から各市町村に対して指導する内容としてまとめられた「府の指導助言事項」という冊子がございます、その中に記されているのが「放課後等における子供のさまざまな体験活動

の場づくりの充実」ということが記されています。このことを受けて吹田市教育委員会としても、学校に対して、学校と家庭と地域が一体となって放課後の子供の居場所づくりの協力ということを市の重点項目とさせていただいて、各校に周知させていただいているところでございます。来年度も引き続きそのようにしていくにあたって、今日お聞かせいただいたお声は貴重だと思えました。引き続き子供たちの居場所となるように皆様のお力をお貸し頂ければと思います。

#### 委員長

ありがとうございます。留守家庭児童育成室の指導員さんからはいかがでしょうか。

#### 委員W

私の勤務する留守家庭児童育成室では避難訓練を、太陽の広場と一緒に今年度は11月21日にさせていただきました。去年もさせていただいております、地震で震度5弱の揺れで発生した想定で行いました。午後3時半で、太陽の広場の子供たちは運動場で遊んでいて、留守家庭児童育成室ではおやつを食べて掃除をしているという状況で運動場に集まるのですが、去年に比べて集合も少し早くなったということで、去年は4分以上かかってしまっていたようですが、今年は4分16秒で集合できて良かったという報告をしてもらいました。私たちの方でも、こういうことがあった時にどうしていくべきか子供たちと一緒に話をし、何かの時には頑張るって逃げたいなども話をしました。

あと、月1回太陽の広場の方、学校、青少年室との4者の連絡会議があつて、私どもからは行事の内容を伝えさせていただき、学校や太陽の広場からもお話しして連携を取るということをさせてもらっています。

#### 委員C

大人の側も今の子供の状況をきっちり把握しておくことが大事かなと思えました。自分たちが子供の時とは違ってすごく忙しい子供たちの様子というところから、留守家庭児童育成室でも新・放課後子ども総合プランの目標の最後に学童保育の役割というところで、子供の自主性・社会性等のより一層の向上を図るという運営指針を元に、ここをどんどん周知していくことが掲げられています。

そういったことで、合同の行事として片山小学校では年に一度「遊びの広場」というお祭りをさせていただいております、そこに至るまでも連携した会議の中で詰めさせていただき、学校とGOGOキッズと育成室で連携して行っています。

日程も調整しながら、今年は先生の研究授業が大々的に行われる年であることもあつて運動場を使える日が限定されるということもあり、11月28日しか実施日がないという制限された中だったのですが、雨でも体育館を開けるということで、体育館開放を利用されている地域のサークルの方にも御協力いただいて、その日をいかに実施するかということをおたくさんの方に考えていただきました。当日は15時から始まり16時に雨が降るというお天気でしたが、GOGOキッズの子供たちは育成室の子供たちの企画した遊びのコーナーに参加して一緒に遊ぶ、ということをおたくさんの方に楽しんでいて例年この日は参加人数が急増します。

また、片山小学校の育成室ではプレハブを使っていましたが、今回の大阪北部地震の影響を受け、生活をする環境ではないということで建て替えが決まりまして、地震の翌日から体育館でブルーシートを敷いた保育が始まり、学校側の協力で空いている教室を調べていただき、生活する場を提供していただきました。

2学期からはGOGOキッズの使用がない水曜日以外の曜日は育成室が利用させていただいてい

ます。

部屋の仕様もGOGOキッズさんから週4日使うのは育成室なので生活しやすいようにしてくださいと言っていただき、今は畳も入れてエアコンもプレハブから持って来て、両方の事業の荷物を置かせていただいて、普段GOGOキッズで使わない荷物は逆にプレハブに置くなど、本当にお世話になって生活が成り立っています。ただ、水曜日はGOGOキッズが使われるので育成室は火曜日の夕方から引っ越しをして、水曜日は普段、子供たちが更衣室として使っている部屋を掃除をして学童の準備をするという形で今年度は取り組んできました。子供たちにしんどい思いをさせている部分もありますが、子供たちにも協力してもらっています。子供たちの中にGOGOキッズの物が見えるところでは生活しづらいという要望があり、今は全部布で隠して子供たちなりにここは育成室だという認識で生活しています。協力して頂いて本当に助かっていますし、この場所がなければ生活ができませんでしたので、連携を図りながら行っています。

先ほどの5、6年生については、毎年9月ごろに子供たちを通して新年度の申請書が配られるのですが、4年生は次の年度がないから配られないんですね。それで5、6年になる子供たちからは、「いつから始まるのか」、「始まるって言ってたのに」という声を突き付けられます。子供たちは4年生が始まったところで5年、6年の見通しを持っている子供は多くいます。短時間しか来なくても帰ってきておやつを食べて帰るにしても、誰もいない家に帰るのではなく、育成室に来てたくさんの子供たちといる居場所が必要だということと、6年生まで一緒に生活するというのはなかなか理解が得られにくいのですが、下の子に頼られていると言う存在感は高学年の子供にとってはすごく大事で、そこをよりどころに4年生になってから下の子と遊びだしたりということがどんどん出てきています。そういった意味でも必要な子供たちがいるということで5年生、6年生を受け入れていけたらと指導員として思っています。

また、外国籍のニーズもあり、私も4名のいろいろな国籍の子供たちを受け入れたことがあります。私自身は英語を学んでいた経験から英語力が必要だなということを実感したり、連絡帳を英語で返したり、学校便りを訳してほしいと頼まれて担任の先生ができないのでこちらでした経験もあります。そういう方たちが増えてきたため、育成室以外でもいろいろなところで準備が必要なのかなと感じています。そういうところでも保護者が救われることはあると思います。以上です。

## 委員長

ありがとうございます。学校に非常にお世話になっていて、場所も提供して頂いているところがある一方で、太陽の広場もそうですが児童数も多く、空き教室がないので雨が降ったら中止せざるをえないところもありますが、その辺り教育政策室はいかがですか。見通しとして吹田の子供は増えていくのでしょうか。

## 委員〇

第1回の会議でも申し上げましたが、今年度も児童数の増加傾向は続くであろうと見込んでおります。特に先ほどもありましたが、千里丘北もそうですが、吹田市各所で大きな開発が行われています。その影響もありまして、当面吹田市の児童数は増加傾向になるだろうと見込んでおりまして、必要に応じて小学校の校舎の増築を検討せざるをえない状況にあります。増築の検討に当たっては、増学級に応じてになるのですが、留守家庭児童育成室の利用者数の増加による育成室の不足見込みも合わせた不足数での検討が必要と考えております。

## 委員長

ありがとうございます。児童会館からは何か連携などできそうなことはありますか。

## 委員I

貴重な御意見ありがとうございます。児童館ではボランティアの方たちを呼んでいろいろな催しを行っておりまして、マジックや一輪車の講習など、子供の情操を豊かにするような遊びのプログラムを実施しています。児童館はゴールデンウィークや年末年始以外は毎日会館しております。ですから、留守家庭児童育成室や太陽の広場と連携できるところはないか、今後の検討課題であると認識しております。

## 委員長

ありがとうございます。では次に、地域で子供に関わる方向けの研修について委員Uからよろしくお願ひします。

## 委員F

今年度、青少年室が実施した研修会ですが、交流や研修を通じてフレンドさんをはじめ、青少年健全育成にかかわっていただいている皆様に、子供たちへの適切な対応を学んでいただいたり、安心で安全な居場所づくりに努めていただいています。本当にありがたいことだと感謝しております。

先ほども話にありましたが、太陽の広場等でのケガは、フレンドさんにとってはすごく気がかりなことなのですが、それを研修等で対応や処置などの具体的なお話を聞くことができまして、ケガを未然に防ぐことやケガに対する対応がスムーズにできていっているのではないかと思います。また、昨年度から子育て支援課にもお声かけをする中で、児童センターの厚生員さんの参加者も増えてきています。次年度も実際に役に立つ研修を企画し、決まり次第、留守家庭児童育成室の方にもお知らせいたします。指導員さんにとっては、時間的に参加するのは難しい面もあろうかと思いますがよろしくお願ひします。

## 委員長

皆様いろいろ貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。

私も通勤途中に小学校の前を通るのですが、小学校で英語の日は、見守りの人も英語で挨拶をされていて、子供たちも英語で返す姿が見られておりますので、私もそんな風に子供たちに声をかけてみたいと思います。本日はありがとうございました。以上で閉会としたいと思います。

## 委員D

皆さん今日はありがとうございました。本日は挨拶の大切さや地域の方への感謝の気持ちも必要だという話もありましたし、5、6年生のニーズというところも新たな課題として出てきているのかなと思いました。これを踏まえまして、今後とも、新・放課後子ども総合プランのさらなる活性化に向けて、御支援、御協力をよろしくお願ひいたします。

尚、今回の会議につきましても議事録をホームページにアップいたしますとともに、関係の方々には会議のまとめを作成し、お配りしたいと思います。

これで閉会とさせていただきます。